

# 令和7年度 山形県立庄内総合高等学校 評価書（自己評価・学校関係者評価）

教育目標 心豊かに、たくましく生き抜く社会人をめざし、知性と情操、自立と連帯、気力と体力を培う

達成度・評価 A・・・達成(9割以上) B・・・おおむね達成(7割以上～9割未満) C・・・部分的に達成(5割以上～7割未満) D・・・やや不十分(4割以上～5割未満) E・・・不十分(3割未満)

重点目標		自己評価			学校関係者評価		
		具体的方策、取組み・達成状況等	評価	次年度への改善点等	意見・要望等	評価	
全 日 制	1	総合学科の特色を活かした授業の充実と確かな学力の育成 (1) UDの視点での授業改善による学習意欲の喚起と学力向上 (2) ICTとAIドрилを効果的に活用した教育活動の推進 (3) 観点別評価等の評価方法の研究と実践 (4) 図書館の積極的な活用と読書活動の推進	・UDをテーマとした職員研修会を行い、生徒にとって分かり易い表現について理解を深めた ・AIドрил「すらら」の活用に関して、職員研修会を実施して、授業での利用を促進させた。 ・観点別評価に関して研修を実施し、評価法に関する理解を深めた。	A	・生徒の学び易さを考えたプリントの作成や ICT の活用を職員の活用事例紹介等を含めた研修等を実施して、学習意欲の向上等につなげていきたい。 ・観点別評価や授業と評価の一体化についての研修は引き続き実施していきたい。	・ICTとAIドрилを活用した教育活動は、他校の取り組みを参考にしながら、進めてほしい。 ・生徒アンケートの結果が良かった。 ・図書館の利用upのために、どんな図書館なら利用したくなるか、レイアウトの変更等、生徒自身に考えてもらうのはどうか。 ・図書委員当中心に毎月ほんの紹介を行うなど。	A
	2	キャリア教育の推進と進路指導の充実 (1) 地域の資源を活用し地域と連携した探究型学習の推進とボランティア活動を通じた地域貢献 (2) 自己実現を図るためのキャリア教育の充実 (3) 個々の志望に応じたきめ細かな進路指導体制の構築と実効的運用	・「地域の自然」「フードデザイン」等の授業では地域の専門家を外部講師(ポイント講師)として活用した授業を推進することができた。 ・庄内総合支庁、庄内町等と連携した企業ガイダンスや体験的な学習を行い、進路意識を養った。さらに庄内町の支援を受けて、進路見学ツアーを実施した。 ・生徒の志望に応じた情報提供等をこまめに行うことができた。	B	・次年度も外部講師(ポイント講師)を活用して、地域と連携した授業を実施していく。 ・ボランティア活動の充実させていきたい。 ・地域企業との交流をはかり、キャリア教育を充実させたい。	・新規に警察署や中学校との連携を図り、山新等で活動を広めることができて良かった。本校をPRする機会がとても良いと思われた。 ・地域ボランティア活動で連携している。 ・総合学科の特徴をよく活かし、家庭や地域と連携している姿が伝わってくる。 ・生徒アンケートの結果が良い。	A
	3	心身の健康と安心・安全教育の充実 (1) 「いのちの教育」を通じた思いやりの心や自己肯定感や自己有用感の育成 (2) 豊かな人間関係の構築と「いじめ防止基本方針」に基づいた取り組みの徹底 (3) 特別支援教育の充実とソーシャルスキルの育成	・1年次「献血セミナー」、1・2年次「健康セミナー」を実施した。また、学校薬剤師から薬物乱用防止講話、警察署講師による非行防止講話を行い、命を大切にすることを伝えて自己肯定感等の育成を行った。 ・日頃からの声かけをこまめに行い、行事を通じて円滑な人間関係を構築するように努めた。 ・SC や SSW と連携しながら、生徒や保護者の相談を実施した。	B	・職員と生徒が具体的なイメージを持てるような内容に整えていく。 ・生徒が安全・安心に学校生活を送れるように生徒会会則の見直し等に取り組んでいく。 ・SCやSSWとの連携をさらに深めて、生徒個別に対する支援を充実させたい。	・指導する側も生徒側も具体的にイメージできる工夫が必要と思われる。 ・いじめ防止対策に注力している。	A
	4	魅力ある学校づくりと地域連携の推進 (1) 家庭や地域との連携・協働による社会に開かれた教育活動の推進 (2) 生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実 (3) 自主的・自律的な特別活動等の推進 (4) 全日制・定時制における連携と独自性の確立 (5) 広報活動の充実と学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	・年次より等をこまめに発行するなどの丁寧な情報提供を行い、保護者との協力体制を構築した。 ・庄内町スポーツ協会主催のモルック大会へ参加するなどの活動を通して地域との綱領を図った。 ・クラスマッチや学校祭等を全定が協力のもと実施して成果を上げた。 ・オーブンスクールや広報誌等を通して、外部への発信を行った。	B	・保護者等に対するお便りやさくら連絡網での情報提供をこまめに行っていた。 ・学校ホームページの更新頻度をあげて、庄内総合高校での活動を広く周知していきたい。	・マスコミに呼びかけ等をその都度している点や本校の特色をHPに掲載して外部にPRしている点はとても良く、今後も継続してほしい。 ・ボランティア活動に積極的である。 ・総合学科の特徴をよく活かし、家庭や地域と連携している姿が伝わってくる。 ・ホームページの役割を学校としてどう考えるかで内容が変わる。	B
定 時 制	1	総合学科の特色を活かした授業の充実と確かな学力の育成 (1) UDの視点での授業改善による学習意欲の喚起と学力向上 (2) ICTとAIドрилを効果的に活用した教育活動の推進 (3) 観点別評価等の評価方法の研究と実践 (4) 図書館の積極的な活用と読書活動の推進 (5) 「学び直し」による基礎学力の確実な定着	・生徒に関する情報と指導の方向性の共有を日常的に行うことに加え、年4回、支援内容に特化した会議を開催している。 ・AIドрил「すらら」の活用について、使用方法の定着が認められた。 ・入学のミスマッチを減らすための働きかけを中学校・生徒・保護者に対し行うことができた。	C	・AIドрил「すらら」について、現時点の活用法から、さらに進んだ個別の活用方法の習得に向け、検討が必要である。 ・UDに関わる職員のノウハウについては、まだまだ不足していると考えられるため、研修機会が必要である。 ・学び続ける過程を理解し、取り組めるよう働きかけたい。	・「図書活用」や「学び直し」に関わる内容での成果が認められる。 ・多様な生徒の個人に合わせた工夫により、指導の充実や目標達成につなげてほしい。	A
	2	キャリア教育の推進と進路指導の充実 (1) 地域の資源を活用し地域と連携した探究型学習の推進とボランティア活動を通じた地域貢献 (2) 自己実現を図るためのキャリア教育の充実 (3) 個々の志望に応じたきめ細かな進路指導体制の構築と実効的運用	・就職模擬面接会を庄内町商工会と連携して行うことで、本番に近い体験を得られた。 ・「卒業研究」では、地域を「知る・広める」活動を通じ、周囲と係わる力、伝えたい物事を見つける力等、様々な力を伸ばすことができた。	C	・多様な生徒の状況に対応できる支援の窓口を、さらに開拓していく必要がある。 ・就労体験はまだ不足していると感じている。さらに協力していただける外部とのつながりの開拓が必要である。	・地域との連繋や、きめ細かい指導がうかがえ、評価できる。 ・教員と生徒の信頼関係の醸成度の高さがうかがえる。 ・個人の課題解決の状況を定時制のノウハウの強みとしていくべきである。	A
	3	心身の健康と安心・安全教育の充実 (1) 「いのちの教育」を通じた思いやりの心や自己肯定感や自己有用感の育成 (2) 豊かな人間関係の構築と「いじめ防止基本方針」に基づいた取り組みの徹底 (3) 特別支援教育の充実とソーシャルスキルの育成	・年2回のいじめアンケートをはじめ、日常の変化を見逃さないよう、生徒・保護者との情報共有に努めている。 ・生徒のソーシャルスキル向上に向けた研修の受講などを行えた。	B	・通級の時間だけでなく、生徒の個別対応の時間を確保するのが当たり前になるような取り組みを定着させていきたい。 ・規則面の指導など、生活指導全般において重層的な支援構造を踏まえ、指導体制を整えていく必要がある。	・いじめに関した取組みに係わり「見逃さない基本姿勢および、職員間での情報共有の状況は、評価できる。 ・自分たちで考え、動くことができるよう、さらに指導をおこなってほしい。	A
	4	魅力ある学校づくりと地域連携の推進 (1) 家庭や地域との連携・協働による社会に開かれた教育活動の推進 (2) 生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実 (3) 自主的・自律的な特別活動等の推進 (4) 全日制・定時制における連携と独自性の確立 (5) 広報活動の充実と学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	・「総合的な探究の時間」と「卒業研究」において、地域との交流活動が行えている。 ・生徒からも、地域連携に肯定的な意見が多くみられている。 ・定時制だけで行う行事の企画・準備など、生徒課と年次が協力しながら、生徒の自治活動の機会を確保し、充実した内容にできた。 ・部活動等において、大会や出展の結果のみならず、生徒の成長につながっている様子が認められた。	B	・部活動等、授業と共に放課後の活動にも生徒が取り組める機会を増やしていきたい。 ・校内規則に関わり、「自分は守っている」と考えている生徒の多さに対して、「他者が守っている」という認識が低いことについて、必要な見直しを行っていく。 ・授業以外においても、生徒と教員が試行錯誤を行える機会づくりを行っていた。	・中学生、親(家庭)、地域に「定時制」の情報はまだまだ不足していると感じられる。とすれば「誤解している」ともいえる。適切な情報発信、説明が必要と思われる。 ・地域連携については、良好である。 ・ホームページ以外に、オンタイムで保護者に伝わる情報手段があると良い。	B
通 信 制	1	個々の生徒に応じた学習指導の推進 (1) 担任や教科間できめ細やかな情報交換を行いながら、生徒の実態把握に努めて学習指導に活かす。 (2) 多様な生徒に対応 するために、研修会を積極的に活用しながら、指導力・実践力の向上に努める。 (3) 単位を取得するまでの過程について、より正確な理解の促進を図る。	・日常的に情報共有を行い、生徒の状況に応じた適切な助言を行った。 ・多様化する教育的ニーズや諸課題への対応を目的として、教員の各種研修会への参加を推進し、実践的指導力の充実を図った。 ・計画的に学習に取り組む力を養うことを目的とした学習ルールの整備について、検討・準備を進めた。令和8年度から運用する予定。	B	・新たな学習ルールの運用にあたり、生徒に変更点を周知するとともに、その理由についても理解を深める。 ・学習活動の計画的実践に向けた自己管理について、引き続き研究・実践を行う。	・生徒の実態把握に努め、連絡を取るようしており、生徒との情報交換がうまくできている。 ・とどろき通信の役割・貢献度は高い。	A
	2	進路指導の充実 (1) 進路ガイダンス・卒業予定者ガイダンス等により、進路意識の高揚を図る。 (2) キャリア教育 推進 委員会との連携を密にし、就労支援のために積極的に外部団体との連携を図る。	・進路ガイダンス(年4回)、研修会(年1回)を実施。内容改善や開催時期の工夫により参加者が増加した。保護者向けガイダンスも好評だった。 ・外部キャリアカウンセラーによる個別相談会(年4回)のほか、インターンシップやハローワーク見学会等を実施。就職支援の充実を図った。	A	・就職希望者の増加に対応し、業務分散も含めた全体的な指導体制の確立を目指す。 ・特別な支援を要する生徒や社会に出ることに消極的な生徒への支援体制について継続して研究・実践を行う。	・生徒の進路意識が高まるよう工夫されていると思われる。 ・生徒が自分達でレポートを頑張ろうとする意識があるのはいいと思う。就職へ繋げるのが大変な中、生徒へのいい機会が何か欲しい。	A
	3	安全・安心な学校に向けた生徒指導 (1) 生徒が安心して学習できる環境づくりに努める。 (2) 生徒会行事の充実を図るとともに、生徒の校外行事への積極的な参加を促し、社会性を育む。	・日常的な声かけや「とどろき通信」を活用した啓発活動により、安心・安全な学習環境の確保を進めた。 ・特別活動の内容を工夫し、多くの生徒が参加できるようにして生徒相互の交流を促進した。また、他の定時制・通信制高校との交流を図った。	B	・「生徒心得」の周知と理解を柱とした、安心安全な学校づくりを推進する。 ・特別活動等の体験的な学びの意義の理解を図るとともに、生徒の実情に即した特別活動内容について、研究・実践を引き続き行う。	・安全点検により不具合があればすぐに改善できている。また、生徒にきめ細やかに対応している。	A
	4	特別支援教育の充実 (1) スクールカウンセラーの活用等、相談活動の充実を図る。 (2) 特別支援に対する校内組織を積極的に機能させ、個別の指導計画を作成する。	・SCIによる相談活動の充実、積極的な周知を図り、有効活用ができた。 ・特別支援委員会が中心となり、個別指導計画を策定し、実践的な支援や配慮を行うことができた。	B	・スクールカウンセラーの活用等、相談活動の拡大に向け、相談へのハードルを下げる取り組みが必要。 ・特別な支援を要する生徒への組織的な支援の充実を図る。	・スクールカウンセラーを適宜利用していることが良いと思われる。 ・単位修得までの流れを、図を使用して「見える化」することで、学習の進め方について理解しやすいものになるとと思われる。	A
総 括	<p>&lt;全日制&gt; 自己評価・学校関係者評価ともに高い評価を得ることができた。特にUDやICT, AI等の活用に高い評価をいただいた。今後も生徒に寄り添った指導を心がけ、保護者等との連携を深めるようにしていきたい。</p> <p>&lt;定時制&gt; 職員の自己評価は低めであるが、学校関係者評価等は高い評価をいただいている。学校関係者評価からのコメントからは、集団学習を基本としながらも、少人数の個別対応を求められていることが読み取れる。新入生が、新しい環境で「やってみよう」と思え、在校生も自立につながるための学びに意欲になれる定時制の集団作りと、個別対応を両輪とし、日々努めていけるようにしたい。</p> <p>&lt;通信制&gt; 自己評価・学校関係者評価ともに高い評価を得ることができた。特に外部機関と連携した活動について高い評価をいただくことができた。今後も個々に応じた学習・進路支援を推進するとともに、わかりやすい学習ルールへの変更を足掛かりとした「計画的に学習を進める力」の醸成を図り、単位修得率の向上を目指す。</p>						